

北斎のまく笑いの種

すみだ北斎美術館 23. 09. 20～10. 22、10. 24～11. 26 (前後期で展示替え)



江戸時代は、狂歌や滑稽本、落語など、庶民でも楽しめる文化が花開き、人々に「笑い」をもたらす「笑いの種」が増えた。「北斎」や「門人」たちは、笑顔や照れ笑い、怪しげな笑いにいたるまで、世間にあふれる多様な笑いの表情や仕草、また笑いが生まれる状況を捉えて見事に描き分け巧みに表現している。更に、さまざまな笑いを表現してきた「北斎」は、“笑いを誘う戯画シリーズの作品”も数多く描いている。

本展は、「北斎」と「門人」たちが描いた“笑いにまつわる作品「約115点」”を紹介し、彼らがまく笑いの種からたくさんの笑顔の花を咲かせ、実りあるひとときを過ごしてい頂ければ幸いであるとしている。



展示作品は、1章「笑顔のいろいろ」、2章「多種多様な笑い」、3章「北斎と門人が描く戯曲の世界」で構成されている。

<代表的な作品> (左図の時計回り)

《百物語 こはだ小平二》

《風流おどけ百句 貧ながき糸目をもってしかられる》

《北斎漫画草筆之部》

《謎かけ戯曲集眼鏡屋とかけてなぞ坊主ととく心はみな人がかけて見たがる》

<本展の見どころ>

1. 世間には、笑顔や照れ笑い、怪しげな笑いにいたるまで多様な笑いの表情や仕草があり、展示室は笑顔を誘う浮世絵がいっぱいである。
2. 北斎の戯曲シリーズで北斎と笑おう 生涯を通じてあらゆる物を描いた「北斎」は、滑稽な戯画シリーズも多数描いていて、川柳風の狂句もあることから、戯画シリーズにはそうした社会情勢や人々の生活を捉えて表す経験活かされているのかもしれない。
3. 本展では、「北斎」による「鳥羽絵集会」「風流おどけ百句」「狂句人戯曲集」「謎かけ戯曲集」などから、「約40点」が展示されている。